

これらの狐群は一度甘い味を占めると、毎晩のように出て来て、その被害は相当に大きくなる。そのために狐捕りのばなを掛けるが伶俐な動物で仲々掛からない。仕方がないので夜中けたたましい鶏の鳴き声に、村人はこれ来たとはばかりに蚊帳から飛び起きて、鶏を口に喰わえている狐を追いかけるのである。驚いた狐は獲物だけは決して離さず、足早に逃げて一向に追いつけない。しかし狐は二〇〇ばかり走ると必ず後方を振り返って、人を警戒するという習性がある。その振り向いて立ち止まっている時間を見計らって、人は追いつくまでに迫るがその瞬間に走り出して、追っても追っても追いつけないとのこと―これも古老たちの述懐する笑話である。よく農村の昔語りに「狐のごせん迎え」とか、「木綿織りの機はたの音をさせる」等の流言もあるが、果たして真実はどうであろうか疑問である。

## 二〇 大 授

大授は東与賀町での最南端に位置を占め、現在の世帯数合計六七（一区―二区―三区―四区―一七）が、堤防沿いに東西に長く広がっている。昭和の初期の入植当時は、ほとんどが農業を営んでいたが、半世紀を過ぎた今日では職業も多様化して、漁業・大工・公務員（役場・佐賀市役所）等種々である。

この大授の村落を抱擁する大授搦は、東西一五六〇間・南北六五〇間面積は実に三〇〇余町歩の茫洋たる一大干拓である。大正十五年に工を起し昭和九年に竣工するまで九カ年の歳月を要したが、この干拓企業組合設立

代表者は、当時の村長山田八郎外一七名となっている。この人たちの献身的な努力によって佐賀県はもとより全国でも有数のこの大授搦が完成したのであるが、その生みの親は何としても当時作土井に在任した故原作一翁（七四歳）であり、翁がただ一介の農夫でありながらこの破天荒の大事業を見事に貫徹したのであった。この原作一翁の卓見と気魂とは、大授搦のある限りそして東与賀の存する限り忘れることのできない大恩人である。

大授という村落の名称は、大搦おおがらみの大と授産社搦の授の上についた頭文字をとって「大授」と名づけたとのことである。この大授の守護神としては、第一区には天照大神を昭和十三年に、第二区では龍王さんを昭和八・九年の頃に祀り今日に至っている。そのお祭りは毎年四月二十日と十月二十日の二回でいずれも幟を立て戸主全員が集まり神酒を飲み供饌を食べて、五穀豊饒を感謝するのである。

入植当時の出身地別調査

区別	町村別	東与賀	川副	諸富	西与賀	鍋島
第一区		六	三	〇	〇	〇
第二区		二	二	二	二	〇
第三区		八	〇	〇	〇	一

備考

- 終戦前後は、福岡県や多久市・佐賀市・神埼町（千代田）よりも入植したが二三年前は大授より出て行った人も四〜五戸ある。

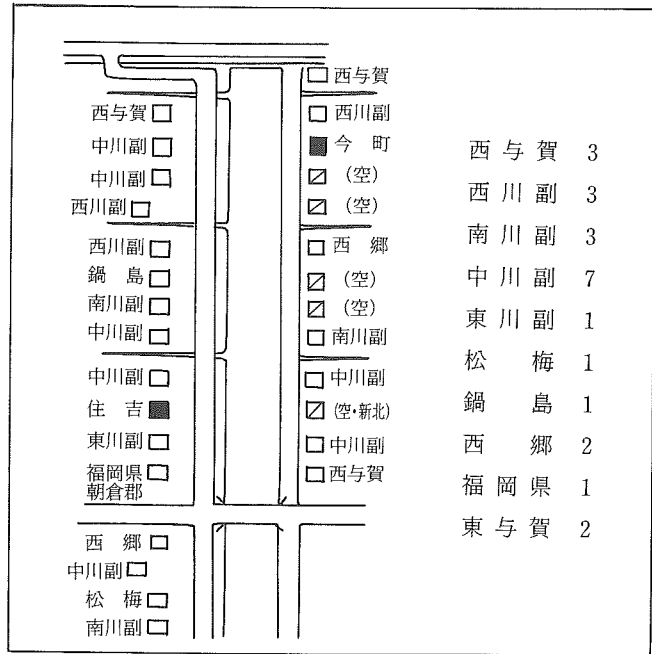
大 2、現在農家の耕作反別は平均一町六反歩で、最高は四町五反、最低は約二反五畝歩である。

3、次の図は昭和十年十一月大授搦の第二区における出身村の調査である。現在の状況と比べると面白い。

干拓が完成して大授搦ができたが、真直ぐに水稲を栽培することはできなかった。二、三年から四、五年間は綿作りから始めた。この綿花は毎年八十八夜前後に種子を蒔き、夏休みの頃は早くも収穫するのである。手ばに綿をいぱい盛って帰り、家の中では、寝床にも座敷にも広げて乾燥したことが思い出される。

その綿花作りの後二年から三年間は、西瓜作りであった。その頃第二区に掛け小屋を作り精一ぱい努力した。幸いにも干拓は塩分が多いので西瓜は味がよく調和して、甘味の強い西瓜ができた。この甘い西瓜が好評を博して、佐賀市をはじめ船津方面の丸山問屋には

大授搦第二区出身村 (昭10年11月)



売行きは上位であった。ただ当時は現在のように自動車はなく、ほとんどがリヤカーや車力で運搬したものである。それでも後には佐賀市辺りからの商人たちは好評の干拓西瓜を大量に買占めに来るといふ盛況であった。この大授の村落で一番の問題点と困難点は、水利と水害で井戸・水道・干魃対策等の水に関する諸問題である。昭和十五・六年度は、約一カ月半も降雨がなく大干魃に遭遇した。水田の水稲はじめ畑の野菜は枯れて、花も咲かず穂も出なかった。毎日の暮しには井戸水を使用した、それもなかなか苦しかった。昭和五年頃は第一区に、昭和八年には第三区に一個ずつの深井戸を掘って、幾ばくかの生活水を得たが、十分に満足せず六軒堀や住吉井樋を利用しなければならなかった。

こうした日照りや干魃のために、上地区とは水争いが絶えず、先般東与賀町に幹線水路ができるまで争った。一番水で困ったのは、水田における苗代の時で、とうとう干魃のために畑苗ですました年も何回もあった。天水といって、雨天時の貯め水をやったが、大授地区全域の生活の支えには到底充分とはならなかった。この干魃に対してその逆の大水害もひどかった。昭和二十八年西九州一帯を襲った集中豪雨のため約一週間から一五日間も水田は一畝以上の水浸しとなった。水害ともなると、上流の東与賀町全域にわたる水量がこの大搦地域に押し寄せるのである。そのために町の北部は水が引いても、この村落はいつまでも水量が残る最後になってから有明海に流出するのである。

大 授 水に対する火についても苦労したが、入植当時家庭の照明としてランプ（石油）で、どの家も三カ年間電燈はつかなかつた。東与賀村内既にランプに代わって電燈が、どこの家にも煌々と灯がついていたのに、ここ大授は螢火のようなランプの時代が続いた。やっと昭和十年から十一年にかけて、まず第一区が灯され、昭和二十三年

から二十四年の頃、二区・三区とも明るい電気の世の中となった。この時の喜びは特別だったのである。  
大正十五年五月十日この干拓の起工式が、東与賀小学校講堂で盛大に開催された。式後は賑やかな祝宴となり大野をはじめ各村落から歌や踊りの余興団が繰り出された。次に掲げる「干拓の歌」は、その時の感激をうたった角力甚句である。

### 干拓の歌

(一) 今度この度東与賀の地先に トコドスコイ〜

干拓事業が始まった

もとの起りをたづぬれば 大正十二年の一月に

村の有志が集まって 協議する事数十回

苦心さんたん三ヶ年 三ヶ町村上京し

三十余日の滞在で 愈々許可となりました

二千五百の口数で 組合組織ができ上り

今日の良き日に起業式 県知事閣下を始めとし

八百有志の方々が 努力せられしいさおしに

孫子の未まで ヨホホイエー忘れやせぬよ

トコドスコイ〜



干拓を空より

(二) 次は何からやらかしましよかね トコドスコイ〜

内のかゝ女が云うことにや よんべ不思議な夢を見た

どんな夢かとうたなら 干拓事業が出来上り

いたる所に米の山 大黒さんじゃなければ

土俵の上のうち乗りて 下女や下男を召使い

豊に暮した ヨホホイエー 夢を見たよ

トコドスコイ〜

(三) 夢じゃあるまい本当の事じゃよ トコドスコイ〜

干拓事業が出来たなら お米もたくさん取れましよう

お麦もたくさん取れましよう そのときや屋敷に倉をたて

倉には米麦つめこんで 大家の奥さん気どりこむのも今しばし

辛抱してくれヨホホイエー 三ヶ年

トコドスコイ〜

(四) 三ヶ年とは情なや 一ヶ年その後には

お米の山を見せてくれ そのときや私も嫁ぎます

くわ鎌かついで土井つきに すなもしますよ

どろいなき運送船にのりまして



わらすぼかき

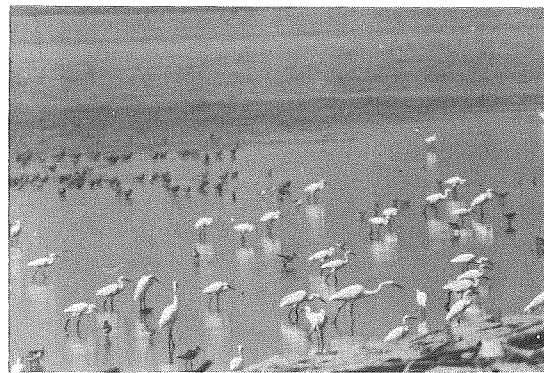
私とあなたがヨホイエー共暮しよ

トコドスコイ〜〜

## 水鳥の大授搦

日本野鳥の会では、毎年春（四月二十九日）秋（九月十五日）の二回、全国一斉の水鳥の調査を行っている。有明海でも熊本・福岡・長崎・佐賀の各県がそれぞれ区域を分担してその調査に当たる。大授搦の水鳥調査担当者の「佐賀野鳥の会」江下甚四郎・岡田尚実・佐賀大学生物研究会野鳥グループは、本年四月二十九日も早朝よりこの地先に集合して熱心に調査し、別掲の年次別調査表や写真を提供され、またその状況について左記のような談話を発表した。

有明海は干満の差が大きい干潟であるので、鳥の餌が豊富で水鳥はここに集中してくる。全国でも屈指の水鳥の生息地である。特に大授搦は有明海でも種類の多いこと、水鳥の群が多いことは最高の地域である。四〇〇〇羽の水鳥がいるのは全く壮観の一語に尽きる。それで遠方から水鳥を探ねて来る人はまずここへ直行する。天然記念物（大正十二年指定）のカササギが全国で有名であると同様に、水鳥につい



水鳥の大群

てもこの地は有名である。

この有明海の水鳥たちは、その豊富な餌を自分の好みに応じて思い思いに食べている。この餌場の面積の広いことも全国では稀である。また水鳥の特色として、夏羽と冬羽は違っていわゆる衣替えをする。そのために見分けるのに難しさがあり、また面白さもあり、それに雌雄の違いもあって実に興味深い。

水鳥は春から初夏（四・五・六月）と秋は九月・十月と干潟に集まる。高潮の時は岸壁近くまで潮に押されて来た水鳥が、次々に水を蹴って飛び立ち、空中で乱舞する大群の光景は実に素晴らしい。この地先で一番多いのは「鴨」類で、その種類も羽数も圧倒的、次いで「ダイゼン」や「千鳥」である。特に調査表に出ていない「鴨」の大群は、毎年十月中旬から翌年三月上旬までこの地先に数万羽も渡って来て越冬する。九州では鹿児島県出水の「ツル」が有名だが、この地先の水鳥の種類の多いことと、餌場の広いことは、観光客や愛鳥家の眼を見張らせるものがある。平素は単調平凡な干潟も、この季節になると実に絶妙壮観で、野趣とロマンの色彩に包まれる。水鳥にすれば絶好の母なる海岸であって、この大授搦はたしかに「野鳥の楽園」としても、「観光有明海」としても将来を期待されると、語り続けたのである。

# 人物



碓前町長の町葬

水鳥の調査表 (東与賀町大授搦地先)

種類別	調査年月日		昭和55年		昭和56年		昭和57年
	昭和54年 4.29	同 年 9.15	昭和55年 4.29	同 年 9.15	昭和56年 4.29	同 年 9.15	昭和57年 4.29
ハマシギ	1,500	1,300	3,700	1,470	3,600	25	844
ダイゼン	500	80	223	40	220	18	157
ソリハシシギ	80	12	16	128	65	42	66
コサギ	5	450	7	220	6	237	
アオアシシギ	40	94	23	110	20	130	96
ユリカモメ	610		503		300	10	343
シロチドリ		530		163		66	2
ハウロクシギ		90	77	62	14	33	43
オバシギ		3	224	15		11	48
コアジサシ		200	3	2	2		
ダイサギ		50		52	1	81	7
キアシシギ	40		27	19		14	5
チュウシャクシギ		15	9	8	21	5	91
ダイシャクシギ	150	7	2	27		17	
オオソリハシシギ			196		150		295
アオサギ		24		6	5	14	3
ムナグロ	50			110			135
メダイチドリ		20		4		40	2
その他	282	11	29	15	12	19	63
合計	3,257	2,886	5,039	2,451	4,416	762	2,200